

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(株)ユタカ 花梨の郷
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	千葉県花見川区千種町111-1
記入者名 (管理者)	有木 睦美
記入日	平成 21 年 2 月 26 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	毎日の朝礼・夕礼の場で理念を復習し、実践に向けて取り組み続けている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	今後も継続していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	自治会への参加はしている。運営推進会議の開催を予定しているので地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	今後もより一層近隣の方達との交流を深めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後もっと積極的に地域活動に参加させて頂き、親しみやすい関係づくりをし地域の一員となる様にますます努力して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしに役立てたいが職員の状況や利用者の状態を考慮すると取り組める状態ではない。但し散歩中に顔なじみになった一人暮らしの高齢者の方達には行事へのお誘いを声かけしている。	○	民生委員さんが近隣の為、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の改善点などを会議の場で話し合い意義しあう事で日々のケアに反映している。外部評価の実施により家族は安心し、職員は介護への再認識を感じている。	○	今後も気持ちを新たに、入居者や家族が安心して生活が出来笑顔のある日々に行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は取り組めていないが、運営推進会議の予定をしている。	○	運営推進会議への取り組みにより利用者へ反映されるため、開催したい。現在計画の為連絡調整している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回の相談員の受け入れを行っている。介護相談・受け入れ事業所の意見交換会にも出席している。不明な点等も市に相談しサービスの向上に取り組んでいる。	○	今後もサービスの向上の為、他施設や関係機関との連携に努めていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在の所取り組めていない。	○	管理者や職員は地域権利擁護事業や成年後見制度を学び必要な利用者に役立てたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての資料を申し送りや会議などで回覧し虐待が見過ごされない様に努めている。	○	虐待があってはいけない。見過ごさない様に管理者は注意し会議の場で話し合い職員1人一人が自覚できる様に行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時以外でも随時行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も入居者や家族の不安・疑問解消が出来るように面会時など声をかけて行きたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎日のケアの中で本人が何かに悩んでいる様子などは事前に電話でお知らせし、面会時に家族との時間を自室ですごしている。家族と職員が話し合う事で意見・不満・苦情の軽減に繋げ、情報は連絡ノートを通じて共有する事により運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の月次報告で利用者の暮らしぶりや担当者が変わった事を報告している。身体的な変化や服薬変更などは電話連絡も随時行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時に話しやすいように職員から近日の報告など話しかけを行っている。家族様から意見を言ってくれる事もある。直ぐに対処できる事はすぐに対処し、後日電話連絡して対応し運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議の場を通じて話し合ったり、運営者や管理者と一緒に食事をしたりする機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の要望に応じて必要な時間帯に職員を確保する為、勤務内容の調整を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>専従での対応で顔なじみの関係が出来ている。依存傾向がある場合は家族・職員間で受け答えを統一している。</p>	<p>○</p> <p>今後も少しでも入居者が安心して生活出来るように配慮していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	職員の入替わりが多く、職員の法人内外研修に行く機会が無かった。しかし働きながら介護福祉士・ヘルパー・の習得の為の講座・自己学習を進めている。	○	今後は職員に段階に応じた法人内外研修を受ける機会を確保し意欲向上につなげサービスの質を高めていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協会に参加し同業者と交流し勉強する機会ももてた。近隣の施設の夏祭りに招待させて頂き相互訪問活動を通じて入居者の多様化。職員の質の向上に向けた取り組みをしている。	○	今後は職員にも他施設との合同行事などの企画段階から活発に参加してもらい意欲向上につなげていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	休憩室は現場から離れた所にあり、ゆっくり寛げる環境を作っている。喫煙も休憩室であれば自由にできる。希望休も取り入れてリフレッシュしてもらっている。	○	今後も継続し、長く勤めて貰える様に努力していく。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	3か月に1回の査定を行い、その際には勤務態度や努力実績により自給に反映させている。皆勤手当や会議手当・もあり向上心を持って働ける様に努めている。	○	今後も継続し、向上心ややりがいを持って勤めてもらえる様にして行く。しかし査定が精神的な負担にならない様に日頃の関係づくりを大切にして行く。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	事前面接の際に本人から直接困った事や不安な事を聞く機会を作り受け止める努力をしている。	○	今後も、本当の気持ちを話せる雰囲気作りに配慮していきたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	事前の見学の際に家族から直接困った事や不安な事を聞く機会を作りその不安や気持ちを受け止める努力をしている。	○	今後も家族が何でも話せる雰囲気作りに配慮していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様の状況をお聞きし、グループホーム入居と言う道でなくても何らかのケアがあれば、在宅で暮らせる可能性がある方についてはあんしんケアセンターを紹介したり、別の介護サービスがある事伝え選択の幅を少しでも広く持てる様に支援している。	○	必要としている支援を見極め対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が少しでも安心して生活出来るように事前に来て馴染んで頂けるように他の利用者や職員と過ごす時間を設けている。	○	今後も少しでも本人が安心できる様に配慮していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で利用者の趣味を生かせる場面作りをする事により利用者から学んだり、支え合う関係づくりに配慮している。そのため、必要な生活歴等の背景情報を職員間で共有しケアに反映している。	○	今後もより一層、一人一人の利用者と学んだり支え合う関係をますます努めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者を支える為に家族参加の行事を設けて一緒に楽しい時間を過ごしたり、利用者を支えて行く為に生活の報告や相談を随時行っている。	○	家族が利用者を思う気持ちに添い、何でも話せる関係づくりに努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	敬老会等企画を通じご家族様の参加やお手紙を書いて頂く事により利用者を支える関係づくりを支援している。利用者の悩みや心配事に対して電話連絡も随時行い利用者を支える一端を担っている。手紙交換や面会・外泊も自由である。家族の宿泊も受け付けている。家族と自由に外出しお食事もされている。	○	家族様との絆が深まる様に今後も一層努力していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係づくりが途切れない様に面会時間は朝8時から自由である。本人の強い望みで以前住んでいた家と一緒に行く機会もあり馴染みの人や場所との関係が途切れない様に支援している。	○	今後も継続し利用者の大切してきた関係が途切れない様に支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格や気の合う利用者同士の方達を同じテーブルにしており、食事作り等ではお互い出来る事を把握している様で助け合っている場面が見受けられている。体調をお互いに心配したり、誕生会では皆でお祝いして利用者同士が関わり合い支え合っている。	○	今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了し他の施設に移られた利用者の面会に行っている。又亡くなった利用者のお墓参りも現利用者の方達と行きお線香をあげている。	○	今後も自分達が出来た事を考えて行きたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に暮らしながら会話の折に本人の意向を汲み取る努力をしている。その際の会話をケース記録に残し職員間で共有している。困難な場合は家族に相談して家族に協力を得ている。	○	意志表示が難しい方でも諦める事なく、些細な事から本人の意向をくみ取れる事もある。利用者様の意向を把握しながら家族様と相談しその方の気持ちに近づける様に努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や暮らし方、生活環境の情報を申し送りノートを活用し職員間で共有しケアの統一を図っている。これまでのサービスの経過等について家族や以前のケアマネジャーと連携し把握に努めている。	○	今後も継続していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしく生活出来る様に日常生活での有する力の見極めを職員との関わりを通じて見極め総合的な判断を会議の場で話し合い把握する様に努めている。	○	今後も継続し少しでも出来る事を探っていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり職員からの意見収集をしている。意見収集よりアイデアを反映し家族からも情報を得ることにより介護計画に反映している。身体的な面では主治医に相談している。	○	これからも家族・職員・本人と連携してアイデアや気づきを介護計画に反映させていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース担当を決めており、ケース担当が実施期間を明示し、期間が終了する際には見直しをしている。又状態に変化があれば関係者と話し合い現状に即した計画を作成している。	○	今後も日々のふれあいの中から状態の変化を把握し、状態に応じ関係者と話し合い現状に即した計画にすぐに対処していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の一人一人の日々をケース記録に残しており勤務前には必ず目を通すことにより情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	今後も継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在の所取り組めていない。	○	地域のケアマネジャーとの会話や関係づくりをして行く事により他のサービスを利用する為の支援をして行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練の際には協力してもらっている。警察には入居者が行方不明になった際の相談をさせてもらっている。又近くのいきいきプラザへは地域の方々の展示会の開催にもよく出かけている。	○	今後必要に応じて活用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問リハビリ・訪問歯科・訪問理容・訪問看護師のサービスを取り入れている。	○	地域のケアマネジャーとの交流や関係づくりをして行く事により他のサービスを利用する幅を広げていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の所利用する機会がなかった。	○	権利擁護や長期的なケアマネジメントなどについて学ぶ機会を持ち今後の支援に活用していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を適切に伝え納得が得られる様に連携している。必要があれば医師と家族が話し合いの場も設けている。	○	今後も本人や家族が安心して適切に医療が受けられる様に支援を継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の診療所・総合病院と連携協力を結んでいる。又診療所医師は認知症にも詳しく気軽に相談に応じてくれる。状態に変化があれば電話連絡にて連携に努めている。	○	継続し利用者・家族の不安解消に努めていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護婦ステーションの看護婦が1週間に1回訪問することにより各利用者の状態を把握している。顔なじみの関係も出来ており心身の変化があれば主治医へ連絡を取ってくれている。	○	さらに連携を密にしサービスの向上に努めていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際には必ずお見舞いに行き状況把握や退院後の生活について家族や関係者と話し合いの場を設けている。状態に変化がある場合などは事前に連携し対応している。	○	更に連携を密にし早急に対応できる様にしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化した場合や終末期のあり方について、主治医・家族・訪問看護師と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	○	更に連携を密にして家族や本人の不安解消に努めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者が暮らせる為にできない事が多いが、事業所として出来る事は訪問看護師や主治医・家族と話し合いチームとして取り組んでいる。	○	利用者が日々をより良く暮らせる様に事業所の出来ること、出来ない事を見極め医療連携とともにチームとして支援に取り組みたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去の際には家族だけではなく移転先の施設のケアマネジャーと連携を取り合い情報交換を行っている。	○	今後も継続していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の方の誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応については話し合いの場を設けて、介護者の意識向上を図っている。	○	今後は勉強会や研修会などの参加を多くして職員の育成に努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	週1回の買い物にスーパーに出かけ好きな物、欲しい物をご自分で選んで頂けるように支援している。利用者の状態に合わせた声かけを行い、生活全般を通じて自己決定が行えるような声掛けを行っている。	○	継続して支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟に一人一人のペースを保てる様に支援している。起床時間・入浴・就寝時間も本人のペースを重視している。	○	職員が利用者のペースに合わせて言葉掛けや待つ事の大切さを会議の場で繰り返して話していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者・家族の意向があれば職員と一緒に美容室に出かけている。出かけたくない人や出かけられない人には訪問理容を利用している。衣類更衣は本人が選択して着ておられ、外出時には女性の方にはお化粧品も自らされている。	○	出来るだけ希望に添えるように対応をしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の手作り昼食を行っている。その際には前日に買い物に出かけ利用者がメニューを決めて頂いているときもある。一緒に食事の準備や方付けに参加する事で利用者自身の力を発揮していただける機会があります。パン教室・うどん作り・団子作りも一緒に楽しまれている。	○	今後も継続し、利用者が楽しみな物になる様に工夫して行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	近くのコンビニやスーパーに散歩がてらおやつ・タバコ・お酒などを御自分で選んで購入している。	○	今後も機会を増やして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表に記入している為大まかな排泄パターンが把握できている。さりげない声掛けを徹底している。歩行が困難な方には面倒にならない様に生活動作を利用した声掛けをして排泄の自立を支援している。	○	今後も利用者一人一人にあった対応をしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせていつでも入浴できる様に支援している。希望で毎日入る人もいれば1日おきの人もいるが本人の意思に任せている。身体状況に置いては本人に納得の上で毎日入浴を勧めている場合もある。	○	今後も継続し本人の意向を大切にしながら支援して行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	天気の良い日は毎日散歩に出かけるなど、日中の活動を多く取り入れている。利用者の生活習慣や状態には配慮している。眠れない利用者の睡眠状況をケース記録に残す事により個別対応を職員間で統一している。就寝前に家族からの電話を頂き安心して休まれている。	○	今後も個別にあった対応を随時考えて行きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の楽しみや気晴らしにボランティアの方に協力して頂きカラオケ大会・民謡・マジック・出張寿司などを取り入れて楽しんでいただいている。生活支援を通じて本人が出来る事の見極めを把握し出来る事は御自分で頂く事により達成感を感じて生活に意欲が持てるように支援している。	○	今後もケースにあった対応を検討する事を継続して行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は週1回の買い物の際には財布を渡して自分で買う楽しみも取り入れていたが症状の進行に伴い金銭への依存が混乱になり生活に支障が出て来た為家族の希望で金銭所持していない。御自分で金銭の支払いが出来る人は個別に対応して行ってもらっている。	○	利用者の状況に応じて家族と相談し判断して行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節によりお花見や紅葉・ピクニックに外出して季節を感じて頂いている。1ヶ月に1回の外食会も行っている。出かけられない人は出前などを取っていただいたり、テラスで日光浴をしたり、本人と話し合い決めている。	○	継続して行く。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常生活からの支援を通じて本人の希望を取り入れて個別旅行を行っている。今年は信州の桃狩りツアーの一般の日帰り旅行に参加して楽しまれている。又利用者が家族旅行する機会も与えられている。	○	今年も家族と利用者のパイプ役として家族参加の企画を充実させていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族との電話連絡は介護の一環としても取り入れ、自由にいつでも受け入れている。季節の年賀状や書中見舞いを利用者を書いて頂き一緒に投函している。書けない人は写真入りの年賀状を送付している。	○	今後も色々と工夫して家族との絆を深める支援をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	これまで大事にしてきた馴染みの人達が気軽に面会に来られるように面会時間は朝8時から夜9時まで面会できる。面会時には利用者の居室で気兼ねなくお茶を飲みながらゆっくりと過ごして頂いている。	○	居心地良い環境作りや接遇に気をつけて気軽に訪問できる様にして行きたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動抑制・身体拘束は行っておらず一人で外出する方には外出傾向の把握・外出の察知に努め後ろから着いて行く等の対応をしている。記録に残し家族への報告も行っている。職員は携帯電話を所持し何かあったらすぐに応援が呼べるようにしている。	○	介護保険法指定基準における行動抑制・身体拘束についての資料を再度目を通して再確認していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をしていないので外出傾向のある方の行動把握に努め、玄関ののれんに鈴をつけたり、察知センサーを取り付け、さりげない配慮に取り組んでいる。	○	鍵をかけずに利用者の方が安全に生活出来る様にさりげない工夫を更に考えて行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	当日勤務者は昼夜を通してそれぞれの利用者の心身状態や行動把握に努め居室で過ごされている方でもドア越しに安否確認する事により安全に配慮している。変化がある場合は申し送りにて情報が共有されて把握できている。	○	継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日中は利用者が自由に使えるようにしている為常に注意をしている。夜間帯は物品や個数を把握し施錠できる所に保管している。タバコに関しては希望時に渡している。喫煙中は傍で会話等をしながらさりげなく見守っている。	○	今後も状態や環境に応じて対応していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1人ひとりの事故防止については過去の事故報告書を参考にし会議等の場で職員全員で事故防止策について話し合いの場を設けている。防災火災チェック表に沿って点検し火災予防に努めている。行方不明に備えて警察署に相談に行っている。	○	事故防止に備えて今後も介護者自身の自覚を再認識していくように常に会議の場での話し合いを継続していきたい。火災予防チェックリストを継続して予防に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	火災初期消火・避難訓練を行う事が出来た。訓練した事により職員の意識が持てた。	○	消防署の立会いで火災初期消火・避難訓練・応急手当を年2回実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会に話しはしたが、現在のところ決定事項にはいたっていない。	○	自治会・近隣住民との連携体制を整え協力を得られるような関係作りに取り組みたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	見学・相談・入居の際だけではなく状況変化に応じてその都度起こり得るリスクを説明している。	○	今後も監視・管理・抑圧されていると言う環境を感じさせない様にさりげない支援・見守りを行って行きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の状態に応じた個別のバイタルチェックの実施により早期発見に努めている。異常がある際には主治医・訪問看護ステーションに連絡し指示を仰いでいる。朝夕礼での申し送りにより情報が共有されて対応に結びつけている。	○	随時主治医との連携に努め利用者の体調の変化に対応していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用量・副作用についての注意事項はノートを活用して把握に努めている。服薬時は利用者に応じて個々に対応している。毎食後の服薬責任者を設けて服薬忘れが無いように徹底している。夜勤者が翌日の薬を準備し分配して誤薬の無いようにしている。	○	利用者の1日の服薬の把握に努め誤薬防止に努めて行く。夜勤者の分配時の再確認の徹底と服薬の変更を申し送りノートに記載し職員が必ず目を通す事を徹底して行く。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、献立も野菜を多く取り入れてアレンジしたり盛り付けを工夫しおやつにはヨーグルトなど自然と食べられる様に支援している。屋外への散歩などの声掛けや排泄もトイレで行える様に働き掛けて習慣化に努めている。	○	主治医や訪問看護との連携に伴い随時相談して行く。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時と就寝前に義歯の洗浄と口腔ケアの声掛けをし、見守りながら出来る様に働き掛けている。入れ歯の消毒は週1回行っている。昼食後の口腔ケアも張り紙などで働き掛けているが嗽程度で終えている。但し外出後は嗽を徹底し習慣化している。訪問歯科医による口腔指導も取りいれている。	○	口腔ケアは高齢者の身体に大きく影響する為今後も徹底していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は1人ひとり確認しチェック表に記入し把握している。摂取量が少ない場合には時間に限らず本人の好む食べ物や水分で補給している。個別の状況に応じて食べやすく調理している。食べこぼしもさりげなく支援している。	○	状態に応じて量を変えたり盛り付けの工夫を継続して行きたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	リスク対応マニュアルに沿って対応している。発症期間間近かになったら対応マニュアルの再確認や注意を払って対処している。	○	リスク対応マニュアルの記載に沿って行われているか監督・指導をしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防に対して毎食後の食器のピュラックスの消毒の徹底・まな板は夜勤にピュラックスの消毒を行い、熱湯消毒を行っている。冷蔵庫や台所周りはピュラックスを噴霧し予防に努めている。利用者への手洗いの声かけを随時行っている。食材は毎日搬入される事により新鮮な材料を確保している。	○	リスク対応マニュアルの記載に沿って行われているか監督・指導をしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、前庭、バルコニーに花を植えてベンチを設置して親しみやすい環境作りをしている。バルコニーも完成し通りががりの方たちとより近い環境で会話などを楽しまれている。	○	交流が深まるように支援していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着いて暮らせるように光や音にも配慮し、生活感や季節感を意識して飾りつけをしている。廊下には入居者の作品や行事の写真を掲示し、面会者も一緒に見られるようにしている。	○	継続しさらなる工夫に努力していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルを複数設置し、気の合う利用者同士で思い思いに過ごせるようにしてある。バルコニーテラスも完成し、気の合う同士で陽射しを浴びながら、談笑できる場所も設けられている。	○	今後も利用者が1人になりたい時間や他者との交流時間も大切にしながら、孤立感・孤独感を感じさせない様に配慮していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂ける様にしている。少しでも住み慣れた生活環境にする事により安心して、暮らせるように配慮している。	○	利用者の状態に応じて、家族と協力を得ながら変えていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみが無いよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる臭いや空気のだよみが無いように換気は随時行っている。温度調節は室内に外気温との差が無いように室温計で温度確認しながら、室温調整を行っている。冬→22度。夏→25度。	○	状況に応じて、細やかな調節に配慮していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設けたり、利用者が洗濯物を干すことが出来る様に高さ調節をしている。	○	一人ひとりの身体機能に応じて自立した生活が送れるように対応方法を変えていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に利用者の写真入りの表札を掲げたり、風呂場はのれんを目印にしたりトイレには『便所』の張り紙をしている。その事により場所間違いや分からない事での混乱を最小限に防ぐ為の工夫をしている。	○	混乱や失敗を事前に防げるように職員の配慮の育成等に努める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先や前庭に花を植えたりベンチやテーブルを置き日光浴やお茶会を催して親しみやすい環境を作っている。横庭では、季節の野菜を植えたりして、利用者が収穫して楽しんだり、近隣の方たちとの交流の場にもなっている。	○	さらに利用者が活動できる機会を多く設けていきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

*自家菜園で入居者と一緒に作った旬の野菜を皆で収穫したり、料理して食べている。また、農業をして来た入居者に色々教えて頂き野菜作りに励んでいる。畑で収穫出来たジャガイモやサツマイモを近隣の方におすそ分けしたり、近隣のグループホームに差し入れしたり、行事に招待して頂いたり色々、交流を深めている。

ホーム横の庭で、夏野菜を植えたり、花壇を造ったりしてくつろぎの庭となっている。ホーム周辺をぐるりと散歩して来た後、庭でお茶会をしたり、時折遊びに来る近所の猫のかわいい姿に見とれたり。「まだまだ現役！」という入居者と芝刈りも行っている。夏祭りも庭で開催出来、たくさんの家族・近隣の方・交流のあるグループホームの方々も遊びに来てくれた。庭の広いスペースで入居者や家族・ボランティアの方達も一緒に盆踊りやスイカ割り大会も楽しむ事が出来た。

*手作り味噌や梅干作り・ぬか漬けやらっきょう漬け等も恒例企画として定着しており、昔からの経験・知恵をおおいに発揮して下さっている。毎月パン教室を開催しており、1F2F合同でワイワイとパン作りを楽しまれている。近隣の保育所との交流も続いており、お散歩に行く途中ホームの前を通ると元気に声を掛けてくれ、入居者も元気を貰っています。

*入居者から「旅行に行きたい」との希望や「昔住んでいた場所に行きたい」と言う希望があり、企画段階から入居者と共に日程やコースを考え、楽しめた。